

原 著

## 根治不能がん患者さんご本人からの蘇生不要

(Do Not Resuscitate; DNR) 確認は必要か

—横浜市立大学附属病院における, 医療者アンケート調査の結果—

市川靖史<sup>1)</sup>, 斉藤真理<sup>3)</sup>, 後藤 歩<sup>1)</sup>, 小林規俊<sup>1)</sup>,  
徳久元彦<sup>1)</sup>, 岡野泰子<sup>1)</sup>, 石川 孝<sup>6)</sup>, 菅江貞亨<sup>1)</sup>,  
成井一隆<sup>4)</sup>, 山田顕光<sup>4)</sup>, 大田貢由<sup>5)</sup>, 諏訪宏和<sup>5)</sup>,  
国崎主税<sup>5)</sup>, 樫山将士<sup>2)</sup>, 石部敦士<sup>2)</sup>, 秋山浩利<sup>2)</sup>,  
遠藤 格<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 横浜市立大学医学部 がん総合医科学,

<sup>2)</sup> 横浜市立大学医学部 消化器・腫瘍外科学,

<sup>3)</sup> 横浜市立大学附属市民総合医療センター 総合診療科,

<sup>4)</sup> 横浜市立大学附属市民総合医療センター 乳腺・甲状腺外科,

<sup>5)</sup> 横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター,

<sup>6)</sup> 東京医科大学 乳腺科

**要 旨:** 医療者ががん患者に死の話題を詳細に告げることは困難を伴うとされ, 根治不能ながん患者の最期の場面で蘇生処置をするべきか否かについての確認は, 患者本人からではなく, 患者の家族との話し合いの中で決定されていることが多い. 今回我々は横浜市立大学附属病院の医療スタッフに対して根治不能ながん患者に対するDNR確認の要否に関するアンケート調査を施行した. その結果を報告する. 横浜市立大学附属病院でがん診療に関わる医師, 看護師, 薬剤師521人を対象とし, 回収率は92.1%であった. 内訳は医師171人, 看護師285人, 薬剤師24人であった. 根治不能ながん患者本人からDNRの確認が必要であるかという質問には, 医師, 看護師の98%が必要と回答し, 不要の解答は1%に過ぎなかった. 医療者の70%以上がDNRを「患者自身が医療者に向けた命令」であると捉えており, 患者自身からのDNR確認の実現に向けて医療者自身の努力がなされなければならない.

**Key words:** DNR, 蘇生不要確認